



Red Hat Satellite 6.15

Amazon Web Services への Red Hat Satellite の デプロイ

Amazon Web Services への Satellite Server および Capsule のデプロイメント

Red Hat Satellite 6.15 Amazon Web Services への Red Hat Satellite のデ プロイ

Amazon Web Services への Satellite Server および Capsule のデプロイメント

Red Hat Satellite Documentation Team
satellite-doc-list@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

Red Hat Satellite Server および Capsules を Amazon Web Services (AWS) Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) にデプロイする際には、このガイドを使用してください。

目次

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	3
第1章 ユースケースに関する留意事項	4
1.1. 機能するユースケース	4
1.2. 機能しないユースケース	4
第2章 デプロイメントシナリオ	6
第3章 前提条件	10
3.1. AMAZON WEB SERVICE の前提条件	10
3.2. RED HAT CLOUD の前提条件	10
3.3. RED HAT SATELLITE 固有の前提条件	10
3.4. RED HAT SATELLITE のインストール準備	11
第4章 AWS での SATELLITE SERVER のインストール	12
第5章 AWS での CAPSULE のインストール	13
第6章 SATELLITE へのホストの登録	14

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。また、改善点があればお知らせください。

フィードバックを提供するには、Red Hat Jira の **Create Issue** フォームを使用します。Jira の問題は Red Hat Satellite Jira プロジェクトに作成され、その進捗状況を追跡できます。

前提条件

- [Red Hat アカウント](#) が登録されている。

手順

1. **Create Issue** にアクセスします。Jira でログインエラーが表示された場合は、フォームにリダイレクトされた後、ログインして続行します。
2. **Summary** フィールドと **Description** フィールドに入力します。**Description** フィールドに、ドキュメントの URL、章またはセクション番号、および問題の詳しい説明を入力します。フォーム内の他のフィールドは変更しないでください。
3. **Create** をクリックします。

第1章 ユースケースに関する留意事項

Amazon Web Services はイメージのみのサービスであるため、Satellite のユースケースによっては、Amazon Web Services 環境では動作しない、または追加設定が必要な場合があります。Amazon Web Services で Satellite を使用する予定がある場合は、使用するユースケースのシナリオが Amazon Web Services 環境で利用可能であることを確認してください。

1.1. 機能するユースケース

AWS では、以下の Red Hat Satellite のユースケースを実行できます。

- [Red Hat サブスクリプションの管理](#)
- [コンテンツのインポート](#)
- [エラータの管理](#)
- [手動でのホストの登録](#)
- [Red Hat Insights](#)
- [IdM 経由のレルム統合](#)
- [OpenSCAP](#)
- [リモート実行](#)

サブスクリプション

すべての Red Hat サブスクリプションがパブリッククラウド環境で実行できるわけではありません。サブスクリプションを実行できるかどうかの適格性は、[Red Hat Cloud Access](#) のページを参照してください。新たな組織を作成して、その組織に新たなマニフェストをインポートすることもできます。詳細は、[Red Hat Satellite の管理の 組織の作成](#) を参照してください。

マルチホームの Satellite および Capsule

マルチホームの Satellite はサポートされていません。

マルチホームの Capsule はサポートされています。マルチホームの Capsule を実装するには、ロードバランサーを使用して Capsule を設定します。詳細は、[ロードバランサーを使用した Capsule の設定](#) を参照してください。

Satellite Server または Capsule Server の内部および外部 DNS ホスト名が異なり、かつ Satellite Server と Capsule Server を配置するロケーション間にサイト同士の VPN 接続がない場合は、この設定を実行する必要があります。

オンデマンドのコンテンツソース

On Demand ダウンロードポリシーを使用すると、Satellite を実行するサーバーのストレージフットプリントを削減できます。ダウンロードポリシーを **On Demand** に設定すると、コンテンツホストの要求時に、Satellite Server または Capsule Server にコンテンツが同期されます。

詳細は、[コンテンツの管理の コンテンツのインポート](#) を参照してください。

1.2. 機能しないユースケース

AWSでは、DHCPを管理できません。このため、Satellite ServerのほとんどのキックスタートとPXEプロビジョニングモデルは使用できないことになります。これには、以下のものが含まれます。

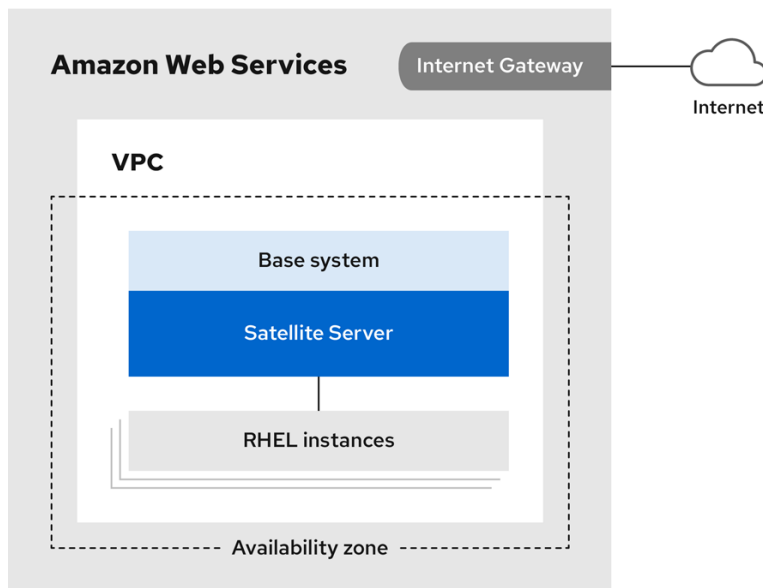
- PXE プロビジョニング
- 検出および検出ルール
- ISO プロビジョニングメソッド
 - PXE-Less Discovery (iPXE) (PXE を使用しない検出)
 - Per-host ISO
 - Generic ISO
 - Full-host ISO

第2章 デプロイメントシナリオ

Amazon Web Services では、以下の 3 つの Red Hat Satellite デプロイメントシナリオがあります。

- 単一リージョン設定
- オンプレミスと AWS リージョンの接続
- 異なるリージョンの接続

図2.1シナリオ 1: 単一リージョン設定



278_Satellite_0922

Amazon Web Services における最もシンプルな Satellite Server 設定は、Satellite Server とコンテンツホストの両方が同一リージョン内かつ仮想プライベートクラウド (VPC) 内にあるという構成です。

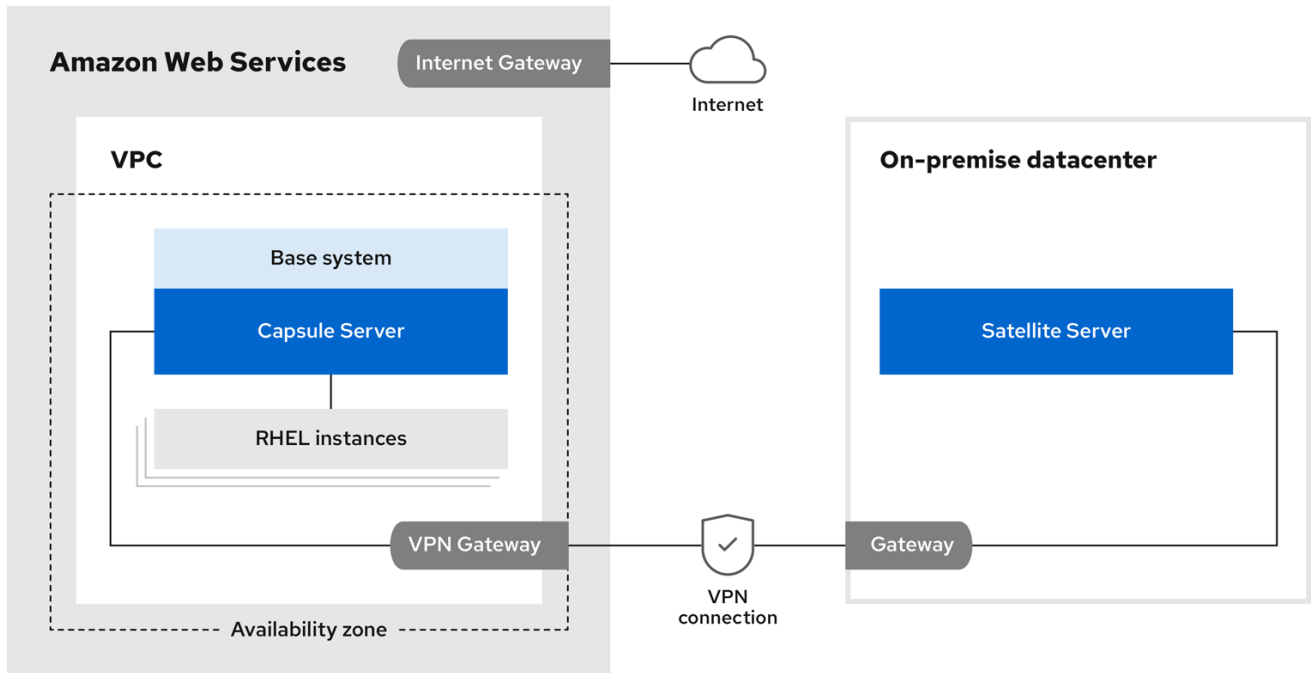
別のアベイラビリティゾーンを使用することもできます。

シナリオ 2: オンプレミスと AWS リージョンの接続

オンプレミスの場所と、Capsule が配置されている AWS リージョンの間に VPN 接続を作成します。

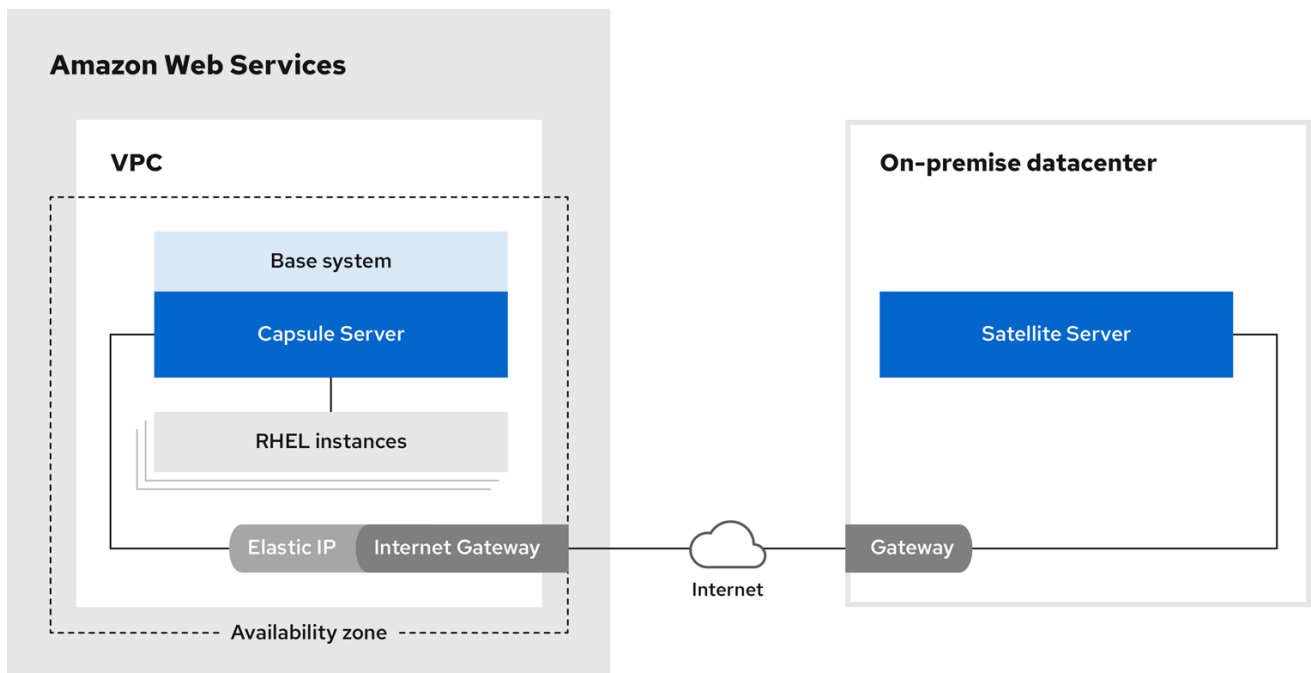
Capsule Server を実行するインスタンスを登録する際に、Satellite Server の外部のホスト名を使用することもできます。

オプション 1: AWS リージョンとオンプレミスデータセンターをつなぐサイト間 VPN 接続



278_Satellite_0922

オプション 2: 外部 DNS ホスト名を使用した直接接続



278_Satellite_0922

シナリオ 3: 異なるリージョンの接続

異なるリージョンをつなぐサイト間 VPN 接続を作成し、Capsule Server を実行するインスタンスを Satellite Server に登録する際に、内部 DNS ホスト名を使用できるようにします。

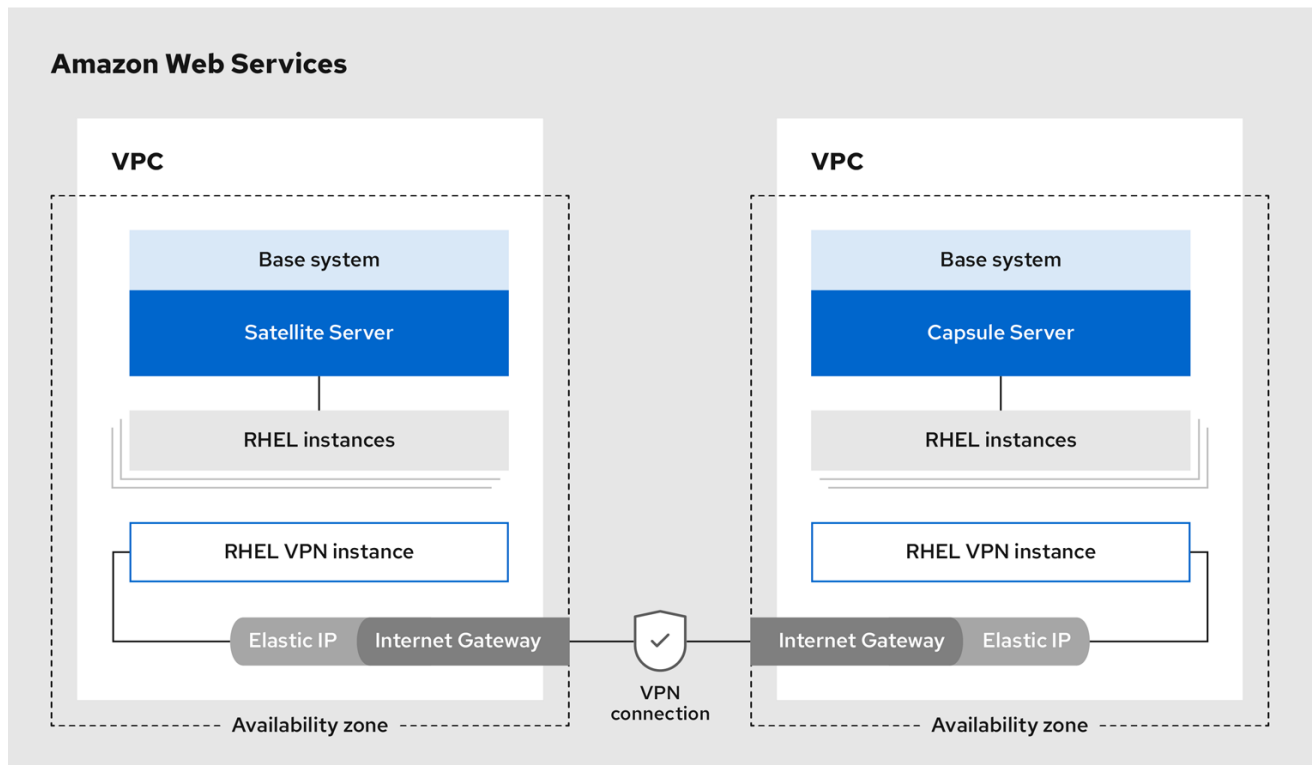
サイト間 VPN 接続を確立しない場合は、Capsule Server を実行するインスタンスを Satellite Server に登録する際に、外部 DNS ホスト名を使用します。



注記

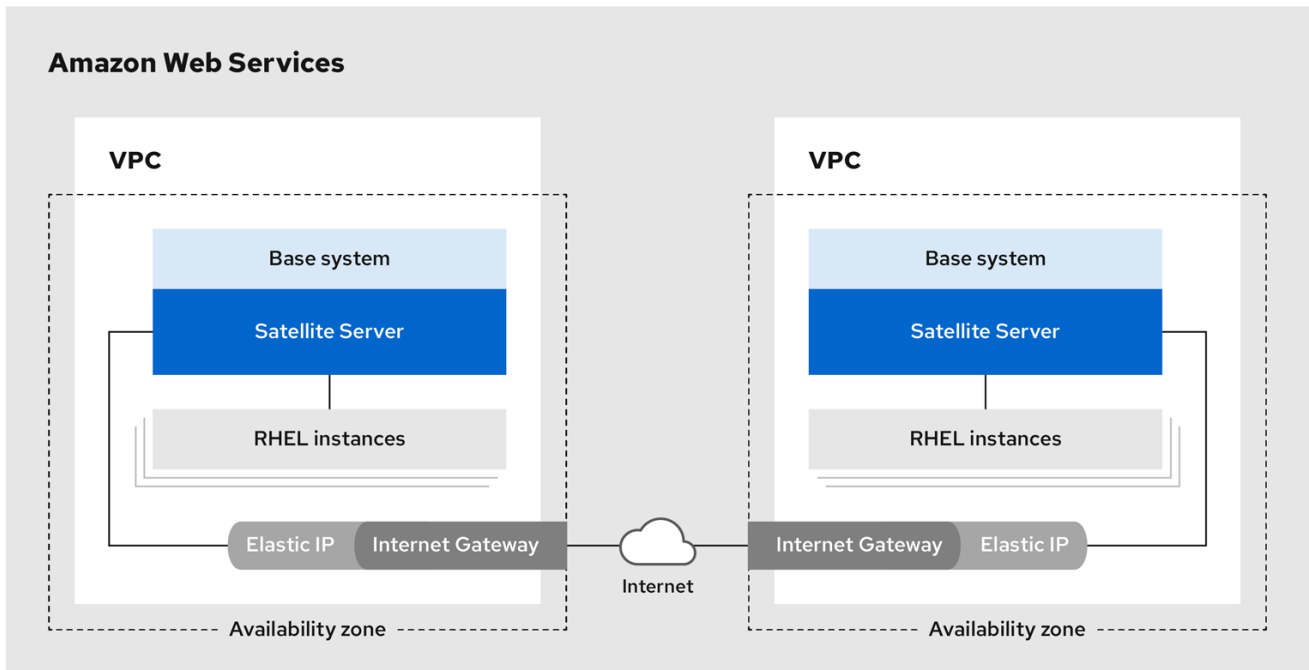
ほとんどのパブリッククラウドプロバイダーは、リージョン内または単一リージョン内のアベイラビリティゾーン間で転送されるデータに対しては料金を請求しません。一方、リージョン外へ出てインターネットへ送信されるデータに対しては料金を請求します。

オプション 1: AWS リージョン間をつなぐサイト間 VPN 接続



278_Satellite_0922

オプション 2: 外部 DNS ホスト名を使用した直接接続



278_Satellite_0922

第3章 前提条件

Red Hat Satellite および Capsule のインストールと登録前には、Amazon Web Services (AWS) でアカウントを設定し、AWS 上で Red Hat Enterprise Linux インスタンスを作成して起動する必要があります。

3.1. AMAZON WEB SERVICE の前提条件

このガイドを使用するには、Amazon Web Services の次の側面に関する実践的な知識が必要です。

- AWS での Red Hat Enterprise Linux イメージの作成とアクセス。
- AWS セキュリティーにおけるネットワークアクセスの編集。
- EC2 インスタンスの作成と EBS ボリュームの作成。
- インスタンスの起動。
- AWS での仮想マシンのインポートおよびエクスポート。
- AWS Direct Connect の使用。

AWS 環境に Satellite をインストールするには、お使いの AWS 設定が **オンラインネットワーク環境での Satellite Server のインストール** の **システム要件** を満たしていることを確認する必要があります。

AWS 環境に Capsule をインストールするには、お使いの AWS 設定が **Capsule Server のインストール** の **システム要件** を満たしていることを確認する必要があります。

Amazon Web Services と関連用語の詳細は、[Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント](#) を参照してください。

Amazon Web Services Direct Connect の詳細は、[What is AWS Direct Connect?](#) を参照してください。

3.2. RED HAT CLOUD の前提条件

このガイドを使用するには、次の手順を完了する必要があります。

- Red Hat Cloud Access での登録。
- 使用する Red Hat サブスクリプションの移行。
- AWS インスタンスを作成し、Red Hat Enterprise Linux 仮想マシンをそのインスタンスにデプロイする。
- お使いのサブスクリプションが Red Hat Cloud に移行可能である。詳細は、[Red Hat Cloud Access プログラムの詳細](#) を参照してください。

Red Hat Enterprise Linux の AWS でのデプロイに関する詳細は、[AWS EC2 での Red Hat Cloud Access Gold Image の確認方法](#) を参照してください。

3.3. RED HAT SATELLITE 固有の前提条件

- Amazon EC2 インスタンスタイプが **オンラインネットワークでの Satellite Server のインストール** の **システム要件** を満たしているか、それ以上であることを確認する。最適なパフォーマンスを得るには、[AWS ストレージの最適化インスタンス](#) を使用します。

- オンラインネットワーク環境での Satellite Server のインストールの [ストレージ要件](#) を参照してストレージ要件を理解し、AWS EBS ボリュームに正しいストレージを割り当てる。
- ブートボリュームとは別の EBS ボリューム上に同期コンテンツを保存する。
- 同期したコンテンツ EBS ボリュームをオペレーティングシステム内で個別にマウントする。
- オプション: その他のデータを別個の EBS ボリュームに保存する。
- Satellite Server と Capsule Server を外部 DNS ホスト名を使用して通信させるには、インスタンスに関連付けられた AWS セキュリティグループで、通信用に必要なポートを開く。

3.4. RED HAT SATELLITE のインストール準備

お使いの AWS 環境で、以下の手順を実行します。

1. Red Hat Enterprise Linux AMI の EC2 インスタンスを起動します。
2. 新規作成のインスタンスに接続します。
3. Red Hat Gold Image を使用している場合は、以下のように RHUI クライアントを削除して、**product-id.conf** の **enabled** パラメーターを **1** に設定します。

```
# dnf remove -y rh-amazon-rhui-client*
# dnf clean all
# cat << EOF > /etc/yum/pluginconf.d/product-id.conf
> [main]
> enabled=1
> EOF
```

第4章 AWS での SATELLITE SERVER のインストール

お使いの AWS 環境で、以下の手順を実行します。

1. 新規インスタンスに接続します。
2. [オンラインネットワーク環境での Satellite Server のインストール](#) を使用して、Satellite Server をインストールします。

第5章 AWS での CAPSULE のインストール

お使いの AWS 環境で、以下の手順を実行します。

1. 新規インスタンスに接続します。
2. Capsule Server をインストールします。詳細は、[Capsule Server のインストール](#) を参照してください。

第6章 SATELLITE へのホストの登録

Satellite Server および Capsule Server をインストールしたら、EC2 インスタンス上のホストを Satellite に登録する必要があります。詳細は、[ホストの管理](#) の [ホストの登録](#) を参照してください。